

# 巻 頭 言

人間発達学部学部長

早 川 純 子

平成22年4月の開設から10年、令和の時代に入り人間発達学部は新たな歴史を迎える。人間発達学部は、人間の発達や教育をめぐる地域の知的センターとして、地域社会や教育・保育現場において人間の発達を支援する人材育成を担うべく、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭の養成に挺身してきた。この10年の歩みを振り返りたい。

平成22年4月、南九州大学に3つ目の学部、また4つ目の学科として人間発達学部子ども教育学科が誕生した。同時に3つの附属機関を設置したが、これらはカリキュラムの3つの柱である「子どもと地域」「子どもの心身」「子どもと自然環境」に対応するもので、学修環境や教育支援体制の充実化を図る目的がある。それぞれ、「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」として、地域連携型の多様な取り組みを実施し、着実に成果をあげてきた。

「子どもの学び研究所」では、本学独自の連携学校園方式（南九大方式）による教育実習の質の向上を後押しし、「子育て支援センター」では教員と学生そして地域住民が一体となった子育て支援の取り組みを積極的に推進してきた。また、「環境教育センター」では他学部と連携し、農業体験、食育など、本学の伝統と都域の豊かな自然を活かした取り組みを行っている。さらに、今後は全学的機関へと組織を拡充させ、SDGsを踏まえた社会課題の解決にも挑戦していく計画だ。

平成25年には、特別支援学校教諭の養成をスタートさせた。県内の私立大学では本学が唯一の養成機関であり、さらに知的・肢体不自由・病弱の3つの教育領域で免許が取得できるのは、鹿児島県を含む南九州地域の私学では本学のみである。発達に特徴を持つ子どもの増加による特別支援教育の担い手に対する社会的ニーズの高まりを背景に、本学の役割は一層重要性を増している。

本書には、以上のような学部独自の取り組みに加え、日々の教育実践や研究の成果が報告されている。情報化やデジタル化が加速する現代は、知識の陳腐化も早い。我々教員も、学び続ける意欲と態度を忘れず、学生たちが社会で輝くためにより一層知恵を絞っていきたい。